

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」(本館)		
所在地	大分県大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成24年10月6日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理事長自ら外出を提案し、車の運転を行い時には弁当持参で四季折々の自然に触れる機会を作っている。その際道の駅等で産地直送の新鮮な野菜・果物を購入しホームで提供している。 ・併設している事業所の行事に参加し、地域の方々と交流を深めている。また、独自でボランティアの方に来て頂き 歌と踊りを披露して頂いている。 ・病院も併設されおり、又看護師も常勤し利用者、家族からも安心できると高い評価を頂いている。 ・中庭のテラスで日光浴を兼ねて散歩したりお茶会を開いている。 ・季節ごとの漬物や梅干等入居者と一緒作り、提供している。 ・入居者と一緒にしぼり染めの手ぬぐいを作り、ボランティアの方のお礼として差し上げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念に表現されている「その人らしく」「個別対応」を念頭に置いた支援が職員のアイデアや協力体制の下に、実践されている。 ・家族の心身両面の負担軽減に配慮された支援が行われている。 ・全職員が常勤で、職員配置も充実しており、事業所運営や利用者支援に活かされている。 ・リスクマネジメントにも配慮された外出支援が日常的に個別や集団で行われている。 ・家族との「交換ノート」として、利用者の日常の写真にコメントを記載したノートが作成されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で意見を出し合い職員全体で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。又、近所を散歩したり、商店に買物に出かけている。	事業所理念に表現されている「その人らしく」「個別対応」に重点を置いた取り組みを、事業所全体で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している老健の行事の盆踊り大会・餅つき大会・カラオケなどに参加したり、地域との交流を深めている。又、独自にボランティアの受け入れも行っている。	地域交流や地域貢献を視点に置いた運営方針を持ち、ボランティアの受け入れや交流を行なっている。また、災害時には、地域住民の避難場所としての認識を持った事業所運営を行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会代表から認知症に関する質問などあり、情報を提供している又、理事長が老人会の会合などに出向き認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、会議では分かりやすくスライドで表し現状報告が十分にされ、又、出席者から意見や要望等を積極的に取り入れサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、多職種の参加者により2か月毎に開かれている。議事録もわかりやすく詳細に記録され、事業運営に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、実状や取り組みを伝えている。又、必要に応じて市役所に出向いたり、電話等で助言などをしてもらっている。	運営推進会議への参加により、利用者の状況や事業所の運営状況を把握してもらっており、情報の共有・連携への取り組みが行われている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出や散歩も職員が付き添い自由に外に出られるような支援を行っており、毎月開催されている法人の全体会議にて、勉強会を開き職員の理解を深め共通認識を図っている。	法人内での学びの場を持ち、言葉での拘束を含め、利用者の行動制限をしない支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、申し送り等で情報を共有し常に皮膚の観察などを行い、状態把握に努めている。又、毎月開催されている法人の全体会議にて、職員の共通認識を図っている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが、毎月開催されている法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識を図るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する考え方や取り組みを説明し、又、介護報酬の改定や退居時には詳しく説明し同意、納得を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会議時に意見や要望を出してもらえるように努めている。又、面会時に何でも言ってもらえるな雰囲気作りをし、玄関には意見箱を設置し利用者本位の運営に努めている。	家族会を年に1度、ユニット毎に開いている。開催時間帯を家族が出席しやすいよう夜間の時間帯にすることで、家族の出席率も高く、食事会を兼ねることにより、家族間の交流も行われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞ける様な雰囲気を作り、取り入れている。又、日ごろからコミュニケーションを図り、問いかけ、聞き出している。	職員異動は、職員の意見や希望が反映されており、事業所内の備品調達や作業手順は、職員のアイデアや特技が活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等をオープンに説明している。又、代表者も頻繁に事業所に来て利用者や過ごしたり職員の業務や悩みを把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やスキルアップの為に法人内外の研修を職員の段階に応じて、受講出来る様に促している。又、新人職員に対しては最初の1ヶ月間はマンツーマンの指導を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の同業所と交流する機会を設け、情報交換してサービスの質の向上に努めている。又、相互研修を通して他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。又、本人の意向が直接把握が難しい場合は、家族から本人の考え方等の情報収集し、反映させる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密に取り、信頼関係を築き、情報確認や現状報告等を行い、又、面会時等に家族の不安や求めていることを理解し、問題解決に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯を聞き、当施設を理解してもらい、入居後、環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を活かした役割分担を図っていて、不安等がある方には時間を掛けて傾聴している。又、外出の機会を作り、マンツーマンの対応でコミュニケーションが図れる環境作りを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報を必要に応じて家族へ連絡し協力を求めたり、一緒に解決できる環境を作っている。又、家族との交換ノートを作り活用している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の行事に参加し、地域の方々との交流を深めている。又、近所の公園へ散歩に行ったり、馴染みの方の面会や電話等があり職員を介して支援している。	法人で開かれる様々な行事に参加することで、老人保健施設やデイケア利用者、ボランティアとの継続交流が行われ、地域商店での買い物や地域住民との日常的な交流支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での座席の工夫を行い、楽しく過ごせる様な場面作りを行っている。又、心身の状態や気分、感情で変化することもあるので注意深く見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は頻回に面会に行き家族との関係を大切に維持している。又、退居後も電話、訪問等で家族の相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思い、希望、意向を知り本人本意に生活が送れるように努めている。又、把握が困難な場合は家族や関係者から情報を得る様にしている。	家族や利用者からのききとりや、利用者の表情から思いを汲み取るように努めている。3か月から6か月毎の介護計画の見直しの際には、アセスメントシートの見直しが行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時に家族や本人からこれまでの生活歴や情報などを聞き取り、他部署と連携し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で表情や言動・気付いたことなどに留意し各種チェック表やケース記録に記録を行い、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成担当者が本人の思いや面会時家族、担当者と話し合い意向を聞き取りプランへ反映している。又、スタッフ間の会話や会議時の意見を取り入れ、プラン作成に反映している。	利用者や家族の思いを基に、現状に沿った介護計画が作成されている。事業所独自のモニタリング表も作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の気付いた事をケース記録や申し送りノートに記録し、職員間で情報の共有を徹底し実践している。又、個別記録を元に介護計画を見直し評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部受診等は、基本的に家族の同行となっているが本人・家族の状況に応じて、通院同行や美容院の付き添いを行っている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察、包括、民生委員に参加してもらい、意見の交換をしている。又、好きなサークルへの参加や地域の美容院の協力を得ることが出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部受診は、基本的に家族の同行受診となっているが状況に応じて職員が代行している。又、医師の指示で総合病院への医療連携もできており、本人、家族の意向に沿った医療連携体制がある。	母体法人の医師がかかりつけ医となっており、法人全体で利用者の健康管理が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化や入浴時、排泄の介助、更衣等の際全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、早期発見に取り組み看護師の元で確実な投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し頻回に面会に行くようにしている。又、家族とも情報交換し速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や急変時の対応について意思確認し、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。又、家族会や面会時・電話連絡などで適宜、状態報告を行い、重度化や終末期に対して随時意思を確認しながら取り組んでいる。看取りの経験もあり、体制は整っている。	今年度2例の看取りが行われている。運営推進会議で、重度化や終末期の事業所の指針を明らかにしており、職員・家族・法人全体の協力体制のもと、支援が行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急連絡、夜間帯の看護師への連絡は、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。又、応急処置は法人の勉強会(実技)で確認し全ての職員が対応出来る様になっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と避難訓練を行っている。地域の小学校の運動場で消火器の使い方など定期的に訓練を行っている。又、推進会議にて自治会長を通して地域の方に災害時の協力呼びかけを行った。	今年度の目標達成計画として、「地域との連携」を挙げ、運営推進会議の場で協力を依頼し、協力者の事業所訪問が計画されている。備蓄は、同一敷地内の法人施設の3階に準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や朝の申し送りなどで意識しあい、本人の気持ちを大切に考え、介助が必要な場合はさりげない声かけや対応を行う。本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意してあ	法人内で研修が行われている。また、プライバシーや個人情報について、利用者やボランティアを含む様々な関係者との話し合いがなされており、適切な対応が行われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、答えやすい様に選択肢を作り、どんな些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言語をくみ取り、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。又、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等日々の中で化粧やおしゃれを楽しめる様な支援をしている。自己決定しにくい利用者には、職員と一緒に考えて本人の気持ちに添った支援を心がけている。又、男性の方には毎日、髭剃りの声かけを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの物を聞き出し、おやつ等で提供したり、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく会話をしながら食事が出来るような雰囲気作りをしている。又、状態により個別で居室対応も行っている。	昼食と夕食は母体法人厨房で準備され、朝食とおやつは、事業所内で調理されている。利用者の様子を確認しながら自力摂取を基本に、食事介助への配慮が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量が一目で分かるように記録し、体重の増減がある方は栄養補助食品を提供しているが、これだけに頼らず、好みの食べ物・飲み物のを提供する様に工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方には声かけ・見守りをして、出来ない方に関してはケアを行い肺炎の防止に努めている。拒否のある方には、無理強いをしないで時間を掛けて対応している。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるように支援している。又、排泄パターンを調べ、その人に合ったオムツを使用することでオムツの軽減に繋げている。	個々の利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表の見直しをすることで、パッドの利用減に繋がった事例がある。利用者の希望や状況に合った排泄支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事を摂り水分補給に気を付け、排泄チェック表にて排便チェックや水分量のチェックを行っている。又、廊下歩行やラジオ体操・散歩等の身体を動かさず働きかけもしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば無理強いをしないようにし、声かけの工夫をしながら対応している。又、入浴は週2回以上行っているが、それ以上か時間の希望がある場合は、本人の希望に添って支援している。	月曜から土曜の午後が入浴日となっており、週に2～3回の入浴支援が行われている。入浴時には、自身で体をこすることが出来るよう、利用者が軍手をはめるなど、工夫を凝らした支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や表情からくみ取ったり、褥創予防のため必要に応じてベッド臥床を行っている。又、寝つきの浅い方に対しては日中の活動を促し生活リズムを整えている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的などの、受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の指示と症状の変化の確認に努め、確実な投薬を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみや食器拭き等得意分野での役割を楽しみながら発揮してもらい気分転換を図り、必ず感謝の言葉を伝える様にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態や希望時に随時ドライブ等に出掛けている。時々には郊外に弁当持参で出掛ける事もある。又、家族の協力も得て外部受診のため外出する事もある。	日常的に個別での買い物や外気浴が行われている。また、寝たきりの利用者も、ベトごと共有空間で過ごす支援が行われている。集団での外出時には、様々なトラブルを考慮したリスクマネジメントが行われている。	

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かっている方が大半で、外出時には、本人に確認し職員を介して支払っている。又、少額のお金を持つことで安心感を得ている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設している老健にある公衆電話に職員が同行し、いつでも電話がかけられるように支援している。手紙も職員を介してやり取りをしている。又、馴染みの方からの電話も職員を介して支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・食堂は、照明・色彩・清潔・適切なスペースを配慮し、畳の間には三面鏡を置いて、家庭的な雰囲気を作っている。又、玄関に生花等飾り季節を取り入れている。	利用者が思い思いに日光浴の出来るスペースがある食卓での座位の保持・安定の為に足置き台の準備、浴室の転倒予防マットを設置するなど、職員の工夫やアイデアにより過ごしやすい共有空間づくりが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよいテラスにイスを持っていき、気の合った入居者同士でお茶を飲んで外の景色を眺めたり、外気浴を楽しんでいる。又、入居者が畳の上で横になり過ごすこともある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具・テレビ等を持ち込み居心地良く過ごせるような工夫をしている。	清掃の行き届いた居室は、担当職員と家族の協力により、季節の衣類交換や安全に過ごせる居室づくりがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせベットからトイレの動線も安全に使用でき、自立した生活が送れるように配慮している。又、床頭台も自由に整理できるように設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」(別館)		
所在地	大分県大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成24年10月6日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理事長自ら外出を提案し、車の運転を行い時には弁当持参で四季折々の自然に触れる機会を作っている。その際道の駅等で産地直送の新鮮な野菜・果物を購入しホームで提供している。
 ・併設している事業所の行事に参加し、地域の方々と交流を深めている。又、独自でボランティアの方に来て頂き、歌や踊り等披露して頂いている。
 ・病院も併設されおり、又看護師も常勤し利用者、家族からも安心できると高い評価を頂いている。
 ・中庭のテラスで日光浴をかねて散歩したりお茶会を開いている。
 ・季節ごとの漬物や梅干等を入居者と一緒に作り、提供している。
 ・入居者と一緒にしぼり染めの手ぬぐいを作り、ボランティアの方にお礼として差し上げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本館と同様

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で意見を出し合い職員全体で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。又、近所を散歩したり、商店に買物に出かけている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している老健の行事の盆踊り大会・餅つき大会・カラオケなどに参加したり、近所の美容院にも出かけて地域との交流を深めている。又、独自にボランティアの受け入れも行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会代表から認知症に関する質問などあり、情報を提供している又、理事長が老人会の会合などに出向き認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われており、会議では分かりやすくスライドで表し現状報告が十分になされ、又、出席者から意見や要望等を積極的に取り入れサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、実状や取り組みを伝えている。又、必要に応じて市役所に出向いたり、電話等で助言などをしてもらっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出や散歩も職員が付き添い自由に外に出られるような支援を行っており、毎月開催されている法人の全体会議にて、勉強会を開き職員の理解を深め共通認識を図っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に皮膚の観察などを行い、状態把握に努めている。又、毎月開催されている法人の全体会議にて、職員の共通認識を図っている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが、毎月開催されている法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識を図るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する考え方や取り組みを説明し、又、介護報酬の改定や退居時には詳しく説明し同意、納得を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会議時に意見や要望を出してもらえるように努めている。又、面会時に何でも言ってもらえるな雰囲気作りをし、玄関には意見箱を設置し利用者本位の運営に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞ける様な雰囲気を作り、取り入れている。又、日ごろからコミュニケーションを図り、問いかけ、聞き出している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等をオープンに説明している。又、代表者も頻繁に事業所に来て利用者と過ごしたり職員の業務や悩みを把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得やスキルアップの為に法人内外の研修を職員の段階に応じて、受講出来る様に促している。又、新人職員に対しては最初の一ヶ月間はマンツーマンの指導を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の同業所と交流する機会を設け、情報交換してサービスの質の向上に努めている。又、相互研修を通して他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。又、本人の意向が直接把握が難しい場合は、家族から本人の考え方等の情報収集し、反映させる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密に取り、信頼関係を築き、情報確認や現状報告等を行い、又、面会時等に家族の不安や求めていることを理解し、問題解決に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯を聞き、当施設を理解してもらい、入居後、環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を活かした役割分担を図っていて、不安等がある方には時間を掛けて傾聴している。又、外出の機会を作り、マンツーマンの対応でコミュニケーションが図れる環境作りを行っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報を必要に応じて家族へ連絡し協力を求めたり、一緒に解決できる環境を作っている。又、家族との交換ノートを作り活用している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の行事に参加し、地域の方々との交流を深めている。又、馴染みの美容院にも出かけたり、知人の面会や手紙のやり取りが出来るように働きかけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間には、職員も必ず一緒に過ごし、職員が調整役となって利用者同士の関係が円滑になる様な働きかけを行っている。状況に応じて席の工夫もしている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は頻回に面会に行き家族との関係を大切に維持している。又、退居時にケアプランや支援状況など情報提供をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思い、希望、意向を知り本人本意に生活が送れるように努めている。又、把握が困難な場合は家族や関係者から情報を得る様にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時に家族や本人からこれまでの生活歴や情報などを聞き取り、他部署と連携し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や動作から感じ取り、出来ない事よりも出来る事を注目しその人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成担当者が本人の思いや面会時家族、担当者で話し合い意向を聞き取りプランへ反映している。又、スタッフ間の会話や会議時の意見を取り入れ、プラン作成に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員の気付いた事をケース記録や申し送りノートに記録し、職員間で情報の共有を徹底し実践している。又、個別記録を元に介護計画を見直し評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部受診等は、基本的に家族の同行となっているが本人・家族の状況に応じて、通院同行や美容院の付き添いを行っている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察、包括、民生委員に参加してもらい、意見の交換をしている。又、好きなサークルへの参加や地域の美容院の協力を得ることが出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部受診は、基本的に家族の同行受診となっているが状況に応じて職員が代行している。又、医師の指示で総合病院への医療連携もできており、本人、家族の意向に沿った医療連携体制がある。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化や入浴時、排泄の介助、更衣等の際全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、早期発見に取り組み看護師の元で確実な投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し頻回に面会に行くようにしている。又、家族とも情報交換し速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や急変時の対応について意思確認し、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。又、家族会や面会時・電話等で適宜、状態報告を行い、重度化や終末期に対して随時意思を確認し取り組んでいる。看取りの経験もあり、体制は整っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急連絡、夜間帯の看護師への連絡は、マニュアルを作成し周知徹底を図っている。又、応急処置は法人の勉強会(実技)で確認し全ての職員が対応出来る様にしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者とは避難訓練を行っている。地域の小学校の運動場で消火器の使い方など定期的に訓練を行っている。又、推進会議にて自治会長を通して地域の方に災害時の協力呼びかけを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や朝の申し送りなどで意識しあい、本人の気持ちを大切に考え、介助が必要な場合はさりげない声かけや対応を行う。本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意してあ		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけをし、表情を読み取り、職員側が決めた事を押し付けたりせずに些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切ったりせずその日のコンディション、様子を見ながら希望を尋ねたりして出来るだけ、一人ひとりのペースを大切にした対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は本人の意思で決めており、職員は見守りを行い、支援が必要な時には手伝うようにしている。又、行事等日頃からお化粧を楽しんだり、馴染みの美容院も利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者より希望のあったメニューを朝食やオヤツに取り入れたりする。又、配膳の準備、盛り付け等を手伝い、職員と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような雰囲気作りをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量が一目で分かるように記録し、体重の増減がある方は栄養補助食品を提供しているが、これだけに頼らず、好みの食べ物・飲み物の提供に工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方には声かけ・見守りをし、出来ない方に関してはケアを行い利用者の気持ちに配慮し、一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援をしている。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、さりげない声かけでトイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ・パット類を本人にあった物を使用している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事を摂り水分補給に気を付け、排泄チェック表にて排便チェックや水分量のチェックを行っている。また、廊下歩行やラジオ体操・散歩等の身体を動かす働きかけもしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	これまでの生活習慣や一人ひとりの気持ちに合わせて入浴日、時間、同性の職員に希望がある場合は、本人の希望に添って支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまで畳での生活習慣があった方に対しては、畳の間で休息を促している。又、夜間不安等で寝つかれない方に対しては安心されるまでホールで職員と一緒に過ごしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的などの、受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の指示と症状の変化の確認に努め、確実な投薬を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・食事の支度・洗濯干し・たたみ・テラス掃除等を手伝うなど得意分野での役割を楽しみながら発揮してもらい感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の美容院やお店に本人の希望がある時には出かけている。又、自宅の様子が気になる方にはドライブも兼ねて様子を見に行く。全員で郊外に弁当持参で出かけることもある。		

事業者名: 認知症対応型グループホームふじ乃家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かっている方が大半で、外出時には、一人ひとりの能力に応じて支払っている。又、少額を手元にかけていて近所のお店に買物に行ったりすることで安心感や満足感が得られる様にしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設している老健にある公衆電話に職員が同行し、いつでも電話がかけられるように支援している。又、手紙も職員を介してやり取りをしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・食堂は、照明・色彩・清潔・適切なスペースを配慮し、広い畳の間を設け、居心地よく過ごせるような工夫をしている。又、各所に花を飾り季節感を取り入れている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい空間にイスを持っていき、外の景色を眺めたり、外気浴を楽しめている。又、気の合った利用者が畳の上で横になり過ごすこともある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具・テレビ等を持ち込み居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス・床頭台等も自由に整理できるように設置し工夫している。又、ベットからトイレの動線も安全に使用できるように配慮している。		